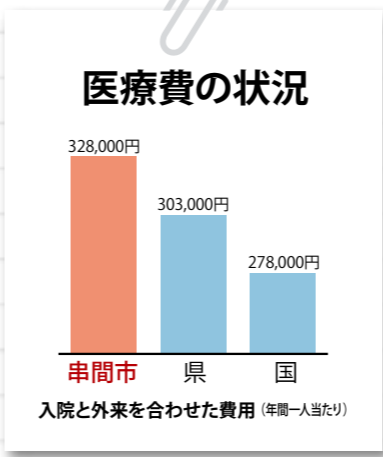


医療費節減のために できること

国民健康保険の医療費は、高齢化や生活習慣病の増加などにより、年々増加の傾向にあります。医療費は皆さんが医療機関の窓口で支払う負担額（他に、国保（税）と国や地方自治体の「公費」によって成り立っています。このまま医療費が増えれば、支出に見合う収入を確保するために保険料を引き上げなければなりません。そうならないためにも、家計にも優しい上手な受診を心がけて医療費の節減にご協力をお願いします。



特定健診を受けて病気を予防しよう

特定健康診査は、糖尿病などの生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣を改善するために行うものです。病気が進行してからの治療には多額の医療費がかかります。自身の健康管理と病気の早期発見、早期治療のためにも特定健診を受けましょう。

今年度の特定健診は11月30日まで。

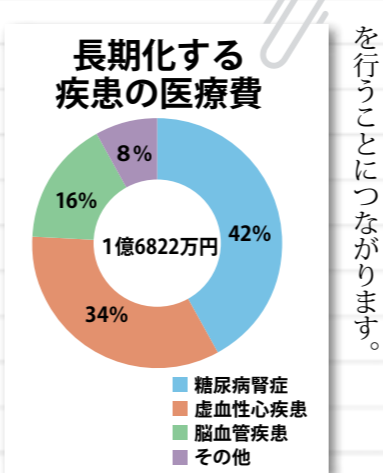
国民健康保険加入者以外の方につきましても、各事業所での特定健診を実施しています。

国民健康保険加入者の方は自己負担1,300円で受けられて8,851円もお得やど!

長期化する疾患の医療費

長期化する疾患の医療費のグラフを見ると、糖尿病腎症・虚血性心疾患・脳血管疾患の医療費で約1億5500万円かかっていることがわかります。糖尿病などの生活習慣病の発症には、内臓脂肪の蓄積が関与しており、肥満に加え、高血糖、高血圧などが重複した場合に糖尿病腎症・虚血性心疾患・脳血管疾患などの発症リスクが高くなります。

糖尿病腎症になってしまうと、透析を行うことにつながります。



たまたま風邪をひいて病院に行ったことで腎臓の悪化を発見できましたが、今思うと病気が悪化する前から健診を受けておくべきだったと後悔しています。現在は月・水・金曜日の週3回、1回4時間の透析に通っています。通院や治療の拘束時間も長し、旅行をするにも「旅行先で飛行機が欠航にならないか」と余計な心配をしなくてはならないので、気軽に行くことができません。とにかく透析生活は制限が多くなりますね。透析は高い医療費がかかり、ほとんどを市などから助成していただいています。腎友会としても、これ以上透析患者が増えることで、医療費が（財政を）圧迫しないように健診の重要性や日常生活での適度な運動、食生活の大切さを訴えていきたいですね。

ジェネリック医薬品とは

ジェネリック医薬品は、先発医薬品の特許が切れた後に作られる後発のお薬のことです。先発医薬品と同じ有効成分で作られるので、同等の効能を持ちながら開発にかかる期間が先発医薬品に比べ短いため価格が大幅に安く設定されています。もちろんいろいろな厳しい基準や規制をクリアした薬なので安全性も問題ありません。

串間市のジェネリック医薬品の利用率

普段利用している薬をジェネリック医薬品に代えることで、少しでも医療費を抑えることができ、窓口負担を減らすことができます。全ての薬品にジェネリック医薬品があるとは限りません。また、医師の判断により変更できない場合もあります。まずは、かかりつけの医師や薬剤師にご相談ください。

串間市のジェネリック医薬品の利用率

串間市のジェネリック医薬品の利用率（金額ベース）が調剤全体に占める割合は約16%です。これを代替可能な先発医薬品を全てジェネリック医薬品に切替えた場合約33%、金額にすると月約320万円。年間だと約3,800万円を削減することができます。本市では、ジェネリック医薬品に変更した場合に医療費がどれくらい安くなるかを対象者の方に通知しています。

こんなにお得!

たとえば...
糖尿病治療薬 代表的な薬を1日1回、1年間服用の場合

先発医薬品 17,280円
ジェネリック医薬品 9,720円
差額 7,560円

ジェネリックを使うと安くなるっ ちゃなー

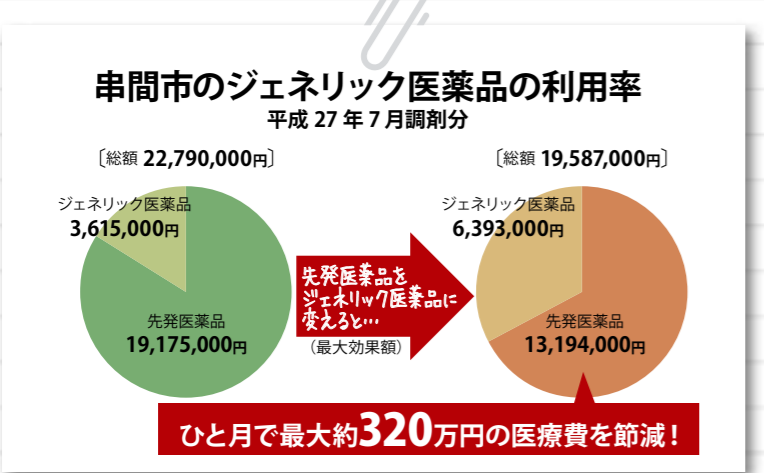
たとえば... 高血圧症治療薬

代表的な薬を1日1回、1年間服用の場合

先発医薬品 6,480円
ジェネリック医薬品 3,240円
差額 3,240円

ほかにも...
脂質異常症の代表的な薬の場合
差額 5,400円/年

※金額は、薬代だけを計算した場合です。



ジェネリック医薬品を希望するには

□ジェネリック医薬品への変更希望を医師や薬剤師に相談しましょう。
□「ジェネリック医薬品をお願いカード」を提示して希望を伝えることもできます。

※すべての先発医薬品にジェネリック医薬品があるわけではありません。

問い合わせ先
総合保健福祉センター
医療介護課 医療保険係
72-0333